

創刊によせて

「図書館学紀要」創刊を祝す

理事長 梅 村 清 明

図書館学関係教職員各位が、55年3月「図書館学紀要」を創刊する旨承り慶びに堪えない。

回顧するに梅村学園が高等知育機関を想定したのは、学園創立者故梅村清光先生が校長在任中であつた。創立者が死去したのは昭和8年であり、私が応召・出征したのは昭和17年で、当時35歳であつた。戦後昭和20年秋、関東軍全員がソ連に拉致され私はシベリアに4年間抑留された。

シベリアの我々は飢えと寒さとノルマと洗脳と、いつ帰られるかわからぬ苦悩とで生き地獄の感があつた。私も丸4年間炊事・伐採・道路作り・路盤作り・枕木運び・レール運び・犬釘打ち・井戸掘り・水道壕掘り・水道塔作り・大工・左官・農業・草刈り・除雪・炭鉱坑夫等をしたが、時々作詩・作曲・脚本・出演・振付け・代表者会議・講師等をしたので若干読書や勉強する機会を与えられた。シベリアの雪中の夢と決意は24年生還後ついに実現することができた。

東奔西走中の読書の中で特に強く記憶に残っているのは、小泉信三著「私と大学」であり、33年米・英・西独・仏・瑞西・伊・希・エジプト・香港等を一巡し、主要大学を歴訪した時の収穫は貴重であつた。

その収穫の一つは論叢と図書館の重要性である。

米国の代表的大学の中にはハーバード・エール・コロンビア・スタンフォード等の大学があり、これらはいずれも私学である。しかし、ジョンス・ホプキンス大学は有名ではなかったが、大学らしい大学として特に大学院について識者の間においては高く評価されていた。

ある日、新聞記者が同大学を訪ねて図書館を見せていただきたいと希望した。ところがびっくりした。図書はみかん箱のようなものに入っており、図書館そのものが極めて貧弱であった。記者は啞然として質問したが、しかし名学長ギルマン博士は誇らかに案内を続けられた。外観にあらず、内容についてその後世評は益々高くなった。

当時論叢を定期刊行し、これまた同様に高く評価された。

私は中京大学開設後、まず論叢の定期発行を強調し、やがて図書館の充実を実現できた。

この方針は松阪女子短期大学においても同様に推進した。

中京大学図書館、同体育学部図書館分館は近年相当に充実するに至った。今回「図書館学紀要」創刊号発刊の報告を聞き慶びに堪えない。この調査・研究は今後必ずや本学図書館の生命の泉になるものと確信する。関係各位の発心と決意に深甚の敬意と感謝の意を表する次第である。

永続と成功を祈ってやまない。

図書館学紀要創刊によせて

学 長 小 山 福 松

今般図書館学紀要が、関係各位の御尽力により発刊されることは誠に御同慶に堪えない。

大学特に本学のように殆んどが実験学科でない文科系の大学にとっては、図書館の充実こそが、大学の使命である研究の場、最高教育の府に直結するものと日頃考えていた。この観点から図書予算には、事情の許す限り大巾に計上し、附近の同種の大学に優るとも劣らない図書館にしようとしてきた所存である。従って約20万冊収蔵出来る書庫も、豊田分館を設けても収蔵し得ず、第2、第3の書庫の設置が急務となっている。